

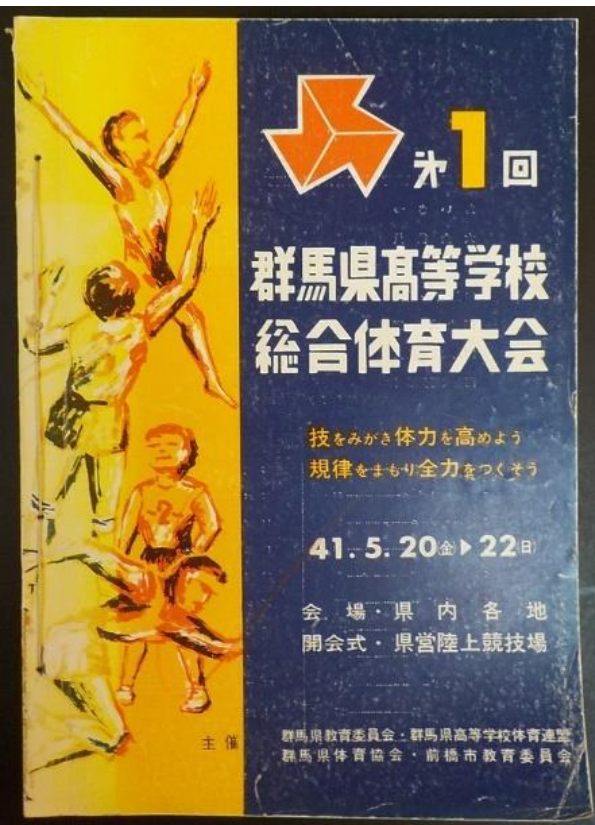
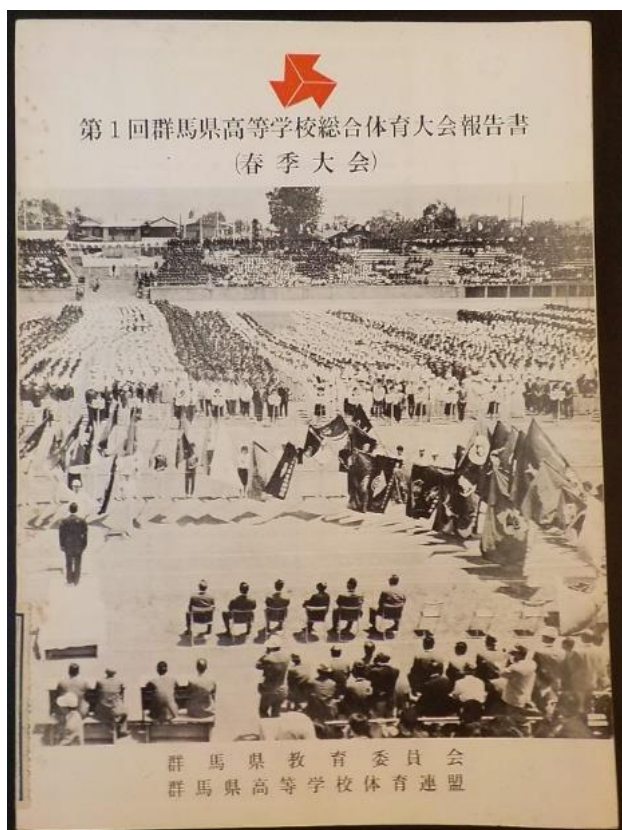
文書館だより

TEL027 (221)2346

URL <http://www.archives.pref.gunma.jp>

第62号

平成31年3月



右 第1回 群馬県高等学校総合体育大会 (B930613)

左 第1回 群馬県高等学校総合体育大会報告書 (B930618)

昭和35年に本県知事に就任した神田坤六（敬称略）は、翌年の年頭の挨拶で青少年の健全育成のための対策を推進する決意を表明した。「昭和36年群馬県議会時報」(A0384 AOG No.2155)によれば、昭和36年2月に高等学校生徒急増対策として工業高校1校の新設のために文部省（当時）等への陳情を実施し、同年5月の定例県議会で県立太田工業高等学校を設置することを可決しました。また、同年10月には、郷土愛、友情、青少年の心身の育成強化のため、昭和42年に開催する第22回国民体育大会の誘致を決議しました。

国体の誘致は叶いませんでしたが、昭和40年10月12日に、昭和44年度全国高等学校総合体育大会の誘致を決議して全国高体連に誘致申請書を提出し、翌年3月25日に本県開催が決定しました。

このスポーツの祭典の成功を目指し、昭和41年5月に第1回県高等学校総合体育大会が開催されました。大会報告書から、競技に参加しない生徒も学校行事でスポーツを楽しみ、記録や報道等の運営にも意欲的に取り組んだことが分かります。

来年8月、全国高等学校総合体育大会の夏季大会が北関東で開催され、本県では総合開会式と5競技が行われます。大会での高校生の活躍を後代に伝えるため、当館も競技記録等の適切な保存に努めて参りたいと思います。

**平成30年度テーマ展示2
「明治150年近代群馬の
あけぼの」の開催報告**

平成30年(2018年)は、明治元年(1868年)から起算して満150年の年に当たります。今回のテーマ展示は、この記念すべき節目に合わせた内容で開催しました。開催期間は、平成30年11月17日(土)～平成31年2月24日(日)であり、期間中に900人を超える方が観覧されました。

長く続いた江戸時代から近代化への歩みは、明治政府の様々な法律や行政命令が中心となっています。今回の展示では、これらの法律や行政命令に対する群馬県の伺いと指令をまとめた『御指令本書』を中心に置き、中央集権によって進められた本県の近代化政策に関する史料を、明治初年～20年代にしばらく紹介しました。

政府の指令・回答である『御指令本書』には、当時の各省の長官である大久保利通や木戸孝允、伊藤博文らの記名押印などもあります。この史料は明治8年に県によるとりまとめが始まり、明治2年～25年の文書が当館に保存されています。実際の展示は、政府の出した法律・行政命令や御指令本書に関連する、「群馬県成立」や「地租改正」、「社寺調査」、「学校設立」、「郷土史作成」、「明治期の合併」

にコーナーを分けて、群馬県の歩みを紹介しました。

展示はすでに終了となりましたが、来館していただければ、これらの史料を2階「閲覧室」でご覧になることが可能です(撮影・コピーも可能です)。また、展示でご紹介できたのは、「ほんの一部」の史料だけでしたが、関連するたくさん史料が当館に保存されています。ぜひお立ち寄りいただき、当県の近代化への歩みをご自身の目で確認いただきたいと思います。そして、豊かな情報の宝庫である公文書や古文書などの記録史料を保存し、後世に伝えていく意義についても関心をもっていただければと考えております。

**開館記念日行事
(第1回ぐんま史料講座・
展示解説会)の開催報告**

平成30年10月27日(土)に今年度の開館記念日行事を開催しました。この行事はぐんま県民の日記念事業も兼ねており、今回は古文書の分野で、2つのイベントを行いました。

●落合延孝氏(群馬大学名誉教授)による講演会「上州の明治維新―民衆知の視点から―」(ぐんま史料講座1)

森村新蔵(現伊勢崎市)、田中両之助(現東吾妻町)、関市三郎(同上)という、

上州に生きた3人の農民が書き残した記録(史料)を用いて、当時の庶民の知的な活動や社会思想の形成等について、わかりやすく紹介してくださいました。定員を上回るお申し込みを頂き、当日は85名の方が受講されました。いただいた感想の一部を紹介します。



「150年以上前の文書を読むことができるのはとても素晴らしい」「地域の歴史を追求することの大切さを再確認した」

「講演会の回数を増やしてほしい」

●テーマ展示1「上州の幕末・明治維新150年前のふるさと」の展示解説会

当時の県内で起こった重要な歴史的事件等につまづる古文書・絵図について、古文書係長が各回30分ほど、時代背景をまじえて解説しました。講演会の内容とも関連する展示であり、延べ38名の方が熱心に耳を傾けてくださいました。

当館では今後も、本県に係る貴重な史料をわかりやすくご紹介する企画を予定しております。そして、このような行事を入り口として、実際に当館2階の閲覧室で文書を手にとり、利用する県民の方が増えることを願っております。



第2回ぐんま史料講座の開催報告

郷土群馬に関連する様々な当館収蔵史料から、特徴的な史料や興味深い史料を選んで活用・紹介する「ぐんま史料講座」。毎年大人気の当講座ですが、今年度は第2回目を12月15日(土)に開催し、60名を超える方が参加されました。

「御指令本書からみた近代群馬のあけぼの」をテーマに、丑木幸男氏(国文学研究資料館名誉教授)を講師に迎えた今回の講座。同時期に館内で開催していたテーマ展示『明治150年近代群馬のあけぼの』とのタイアップ企画として、相互に関連する内容で開催しました。当日

は、講座終了後に、関連資料（原本）の特別展示や、展示室にて展示解説会も開催しました。

「両企画の中心となる『御指令本書』は、明治になり様々な政策を進める上で必要となった群馬県の伺いに対し、中央政府が下した指令書を編冊したものです。

この当館収蔵の『御指令本書』から、本県の町村議会成立などの地方自治を中心に、講師である丑木氏からお話をうかがい、県民の政治への参与から見た群馬県の近代化について読み解いていきました。

参加者からは、「明治はじめての自治制度のことを初めてお聞きすることができ、良かった。」「市町村の成立や指令書の内容が良くわかった。」「身近な歴史を公文書を通じて聞くことができてよかった。」などのご意見をいただいたことから、丑木氏の講座がわかりやすく興味深い内容であったことがよくわかります。中には「資料について、関心が深



くなった。」とのご意見もいただくなど、単に「歴史」ということだけでなく、記録を残す意義についても思いが広がる素晴らしい講演でした。

学校連携業務報告 前橋市立天川小学校との授業連携

平成30年10月25日（木）、天川小学校の第3学年児童25名が、「総合的な学習の時間」における地域の調べ学習として来館しました。この学習は、地域の歴史に目を向けて母校や地域のよさを見つけ、伝統を守り将来に伝えていこうとする気持ちを育てるねらいで行いました。

当日児童たちは、まず本館職員から「文書館」の読み方を学び、業務内容や所蔵資料についての説明を聞きました。その後2班に分かれて館内見学を行いました。国重文「群馬県行政文書」が収蔵されている書庫に入って、電動書架の仕組みと温湿度の管理方法について学びました。閲覧室では、所蔵古文書の実物に触れたり、インターネットからの収蔵資料の検索を教えてもらったりしました。さらに整理室では、ほこり落としやラベル貼りなど文書の保存に関わる作業について、また地下の機械室では空調管理について、見聞きました。

文書を「収集」し、集めた文書に番号

をつけて「整理」し、温湿度や虫の発生に気をつけて「保存」し、地域の歴史を調べるために「利用」する、本館の日常業務を子どもたちに伝えることができました。た貴重な取り組みとなりました。



全史料協全国大会（沖縄県）参加

前号でもお伝えしましたが、全史料協とは、「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会」の略称です。この協議会は、文書記録を中心とする記録史料を保存し、利用に供している機関会員と、この会の目的に賛同して入会した個人会員で構成する全国団体です。

全史料協では、会員相互の連絡と提携

を図り、研究協議を通じて、歴史資料の保存利用活動の振興に寄与するために、研究会や講演会を開催しています。平成30年11月8、9日に沖縄県那覇市で全国大会が開催され、機関会員として当館職員もこの研究大会に参加しました。

今回の大会は、「アーカイブズ再考—その価値と活用—」をテーマに掲げ、文書館のようなアーカイブズが蓄積した知的資源の価値を吟味し、発信し、活用の可能性を広げるという視点から、「アーカイブズ」を「再考」しました。

大会は2日間にわたり、視察研修（沖縄県立公文書館・南風原文化センター）から始まり、4つの研修会、委員会報告、大会テーマ研究会、総合討論会が実施されました。

研修会では、人権や公害、デジタル化に関するアーカイブズをとり上げ、社会とアーカイブズのつながりを改めて考えることができる内容でした。中でも、米軍政下の沖縄で作成・蓄積された「琉球政府文書」の保存・活用事例は大変興味深いもので、これらの史料が現在（または未来）の社会において有する価値は非常に高いものであると感じました。ぜひ研修で得た知見を、アーカイブズである当館の業務の「再考」に役立てたいと考えています。

新たに収集した 古文書

◆前橋市・一倉喜好氏収集文書

明治時代の桂萱(かいがや)村役場文書や、郷土史家で当館職員でもあった一倉氏の収集資料など。119点(寄贈)

◆伊勢崎市・金子光子家文書

宮子(みやこ)村の村高帳、那波(なわ)郡の石高帳、「口々相承龍宮本記」、佐位(さい)・那波両郡地図など。5点(追加寄贈)

◆安中市・赤石幸夫氏収集文書

明治時代の碓氷郡中野谷村の「收穫地佃取調帳」第壹号、二、三、四、六号(明治10年3月)。第五号は欠本。5点(寄託)

◆群馬県・馬場信房氏収集文書

群馬郡八幡村水帳(元禄二年)の写しや、御成敗式目の版本など。24点(寄贈)

新たに公開した 古文書

●藤岡市保美・高橋辰巳家文書

当主は天保5年には保美村三給のうち旗本加藤駒五郎知行所分の名主であった。第2次公開であるが、今回の文書の方が文政5年の水帳(検地帳)や数冊

の宗門人別帳などを含み、村方(名主・戸長関係)文書として基本的な文書が多い。高橋家の私的文書も若干含まれている。207点(P8109)

●中之条町岩本・神保忠史家文書

近世から近現代に至る吾妻郡原岩本村の村政および神保家の家政資料が中心。貞享3年の検地帳、宝暦4年の村明細帳など。家政資料には天保年間から明治30年代にわたる材木の伐出しや川下げ、江戸深川の材木商との関係を示す資料が多い。ほかに地方書の『地方秘傳集』『田園類説』や書簡、地券など。6418点(PO1209)

●神奈川県・久米幹男氏収集文書

1点を除き、全て絵ががき。群馬県内の観光地・温泉・寺社などの白黒写真が中心。時代は昭和20年までか。八ッ場ダムに沈む地域や、活発な火山活動がうかがえる草津白根山、浅間山の写真もある。312点(PO1504)



「上毛奥利根上牧名勝」(文書番号11)

新たに収集した 公文書

管理受任等 平成29年度に管理委任、引継により県の各機関から受け入れた文書は、987冊でした。(詳細は表1のとおり)

表1 平成29年度管理受任文書の課室別冊数

課・室名	簿冊数	課・室名	簿冊数	課・室名	簿冊数
学事法制課	92	介護高齢課	38	産業政策課	22
税務課	12	保健予防課	19	商政課	3
消防保安課	47	障害政策課	32	労働政策課	30
総務事務センター	25	食品・生活衛生課	6	道路管理課	44
企画課	2	廃棄物・リサイクル課	3	都市計画課	60
地域政策課	8	林政課	3	河川課	417
健康福祉課	15	農政課	10	選挙管理委員会事務局	4
医務課	29	ぐんまブランド推進	16	(教)文化財保護課	50
				合計	987

収集 平成29年度の文書整理において県庁各所属が廃棄した文書資料の中から、文書館が歴史資料として収集したものは2235冊でした。(詳細は表2のとおり。なお、管理委任解除とは、保存期間が満了し、管理委任を解除された文書から収集したものを)

表2

部名	簿冊数	部名	簿冊数
総務部	87	県土整備部	472
企画部	65	会計局	1
生活文化スポーツ部	34	議会事務局	26
子ども未来部	29	人事委員会事務局	1
健康福祉部	122	選挙管理委員会事務局	29
環境森林部	100	労働委員会事務局	4
農政部	379	教育委員会事務局	156
産業経済部	140	(管理委任解除)	590
		合計	2,235

平成29年度収集文書の部局別冊数
(参考)平成28年度の状況
・管理受任等 961冊
・収集 2073冊

新規公開公文書の紹介

県や市町村が仕事を進める上で受け取ったり作成したりする書類（公文書）は、仕事で必要となる期間を想定した、「保存期間」が設定されています。

保存期間が過ぎた公文書は、業務上必要となれば保存期間を「延長」しますが、不要となれば「廃棄」されます。

当館では「廃棄される群馬県の公文書から、将来使われる可能性のあるものを選び出し、保存する」という仕事を進めています。保存された公文書によって、県の仕事を見直したり、参考にしたりと、作成目的とは違う視点での利用が可能となるのです。

この廃棄から選り出された公文書は、保存や利用のための処置がなされたものから、順次みなさんに公開しています。今回は、平成29年度に公開となった公文書から、特徴的な文書1点をご紹介します。

「明治百年記念映画綴」A O 1 8 1 B O O No. 87（昭和43年）

昭和43年（1968年）は明治100年であり、当県の明治百年記念事業の一環として映画『ぐんま百年』が制作されました。制作目的には、「明治以後、著しい変革と伸展を遂げた本県のあしどりをえがくとともに、輝かしい業績を残した

郷土の先人の記録をここに残し、あすの県民に対して道標のひとつにする。」とあります。パンフレットやシナリオなどの史料も添付されていて、特筆される群馬県の素材で構成されている映画であることがわかる史料です。ぜひ当館にお立ち寄りいただき、手に取って詳しく見ていただきたいと思います。ただし、映画のフィルムそのものは当館では、保存していません。

ホームページリニューアル

平成31年1月からホームページをリニューアルし、従来よりさらに見やすく使いやすくなりました。

古文書の検索では、群馬県の地図上からのほか、現在の市町村名や、平成の大合併前の旧市町村名からも探すことができます。

また検索機能のほか、「インターネット古文書講座」など従来のコンテンツはそのままに、2月から開始した「群馬県立文書館所蔵国指定重要文化財絵図シリーズ」（左図）など今後も内容を充実させていく予定です。



整理室より

平成27年度から4か年計画で実施した、国文学研究資料館（東京都立川市）所蔵「群馬県庁文書」の全点のマイクロフィルム及びデジタルカメラ撮影による収集を今年度、無事に終えることができました。本文書は、もともと群馬県庁で作成・保存されていたものが、何らかの理由で古書店に出て、昭和33年度と36年度に文部省史料館（当時）が入手した文書です。

今年度は厚さが20センチを超えるような文書や一辺が4メートルを超えるような絵図を専門業者が撮影し、DVDやハードディスクに保存した合計2万枚を超える電子画像を紙焼きしたものを製本化する作業を行いました。具体的には、製本前に文字の写り具合や文書や絵図に添付された付せんの状態を点検しました。今年度

収集した文書は、河川の使用に関わる文書が多く、多くの文書に川の流れを描き、流域の村名を記した簡潔な図面が添付されています。そして製本後はラベルを貼って目録を作成し、書庫に排架します。また、今年度収集した大型の絵図は村名不詳のものもありますが、土地の利用状態が様々な色で表現されており、細部をよく読み取ることができます。これらの絵図は全体図

とともに分割図も作成しましたので、今後、閲覧室のデジタルアーカイブ・ビューアーで利用できるように準備をしていきます。

さて、現在、すでにインターネットで公開している、「群馬県行政文書簿冊目録 第5集」所収の明治期行政文書の件名目録を作成しています。目録のデータ化にあたり、文書の内容を簡潔に表現することで、検索性を上げることを目指しています。また、昭和四十年代の行政文書の装備を行っていません。当時の文書は、わら半紙やセロハンテープを使用しているものも多く、ひどく変色しているものもあります。

このように整理室では様々な材質の紙を常時取り扱っているため、適切な温湿度の維持とともに、紙の汚損の原因となる虫の調査と駆除は欠かすことができません。現在、館内各所に粘着トラップを56基置き、虫の発生の態様を精査しています。具体的には月1回、全てのトラップ内を目視し、虫やホコリが付着していればその様子をデジタルカメラで撮影し、新しいトラップに交換しています。

今後も、調査研究に貢献できるよう、収集文書の適切な保存に努めて参りたいと思います。

閲覧室かわら版 その6

当館ホームページが平成31年1月に新しくなり、インターネット講座「第5弾ジャンプ・アップ!ぐんまの近代文書選」を開始しました。当館主催の「長期古文書講座」で過去に使用した幕末維新时期〜明治・大正・昭和初期に至る近代文書約300点の中から、明治期を中心に約60点を精選し、近代群馬の歩みを読み解く特徴的なものを掲載していきます。ご自宅での継続的な学習にご活用ください。

この講座で使用した文書は、閲覧室にて所定の手続きを経た後、手に取って閲覧することができます。また、インターネット講座では紹介しきれない「長期古文書講座」のテキストもそろっていますので、ぜひ一度、閲覧室へお越しください。



新規公開文書展2019 開催中のご案内

今回は、平成30年度に閲覧公開した昭和41年〜45年の群馬県行政文書と古文書14件・1万点余の中から計33点の史料を選び、前期(3月9日〜5月12日)・後期(5月18日〜7月7日)に分けて展示しています。

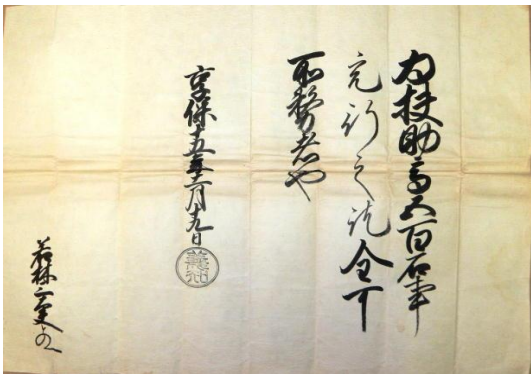
群馬県行政文書は、①ぐんまの記録〜明治百年記念映画『ぐんま百年』(昭和43)、②災害の記録(1)〜降電(ひょう)による被害状況(農産物)〜(昭和43)、③災害の記録(2)〜台風による被害(鹵検定所)〜(昭和41)、④火山の記録〜浅間山火山情報〜(昭和41)、⑤線路の記録〜太子(おおし)線(長野原線 長野原〜太子間)の廃止〜(昭和45)の5点です。②の県農政部で作成された史料には、昭和42年・同43年の降電による被害状況の写真が綴られています。吾妻郡・旧群馬郡群馬町・渋川市のもので、電粒(ひょうつぶ)や傷ついた野菜の様子が克明に記録されています。

古文書は、①若林茂生家文書、②多加谷敏則家文書、③中村茂氏収集文書、④飯塚洋子家文書、⑤上松徹氏収集文書、⑥久米幹男氏収集文書を展示しています。①と②は、旧前橋藩士子孫の家に伝存した文書です。知行宛行状や明治初期

の前橋藩士屋敷割図などが注目です。③は高崎市下大島町の村方文書、④は渋川市上白井の村方文書です。⑤は江戸時代中頃の前橋城を描いた絵図等、⑥は昭和期の県内温泉地や名所の絵葉書です。

《展示史料紹介・若林茂生家文書》

左の文書は、享保15年(1730)、若林三太夫が前橋藩主(当時は陸奥国白河藩主)松平明矩(あきのり)から知行500石を与えられた充行状です。黒印は「義知(よしちか)」となつていますが、これは明矩の初名と考えられます。若林家に宛てられた充行(宛行)状は、慶長期や美濃国大垣藩戸田氏家臣の時代を含め数通が残されており、それらも閲覧公開しています。



「松平明矩知行充行状」
(享保15年11月、P01207 No.73)

今後の行事予定

★展示

●新規公開文書展2019

3月9日(土)〜7月7日(日)

●テーマ展示1「ぐんまの温泉」(予定)

8月3日(土)〜11月10日(日)

★講座

●古文書入門講座(土曜日:全5回)

6月1日〜6月29日

午後1時30分〜3時30分、定員60人

(申し込み多数の場合は抽選)、テキスト

卜代1500円

※申込期間は4月23日(火)〜5月13日

(月)必着

●長期古文書講座(土曜日:全11回)

9月7日〜11月16日(予定)

平成31年度は、大規模な空調設備の工事が予定されており、行事予定が変更になることがあります。また、一定の期間、休館となる可能性があります。

※詳細は文書館HPをご覧ください

発行／群馬県立文書館

<https://www.archives.pref.gunma.jp>

題字／岡庭征人書